

JOSEI KANAGAWA

# 浄青神奈川

No.33

大本山光明寺法主宮林昭彦台下御染筆



- 2 三荒会長挨拶
- 3 宮林昭彦台下挨拶  
平野仁司教区長挨拶
- 4 渡部俊賢前会長退任挨拶
- 5 行事報告・出向者紹介
- 6,7 執行部紹介
- 8,9 各組紹介
- 10 卒業、新入会員紹介
- 11 豆知識
- 12 平成18年度事業計画

第18期テーマ

選択(せんたく)の責務  
～選択(せんちやく)を担って～

第16代会長 三荒 弘道

# 選択の責務

第18期浄土宗神奈川教区青年会

第16代会長 三荒 弘道



聖号十念

この度、第十八期浄土宗神奈川教区青年会・第十六代会長に就任致しました、中郡組宗源寺三荒弘道と申します。法然上人のみ教えを礎に、諸先輩の皆様方が大切に繋いでこられた伝統ある神浄青を、全身全霊を込めしっかりと繋いでまいります。浅学非才の身ではありませんが、二年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。

二十一世紀に入り六年目を迎えた今、個人の価値観が多様化し、社会のグローバル化が進行する一方で、公への責任観や道徳意識は崩壊の瀬戸際にあり、民族間・宗教間の対立は増すばかりです。その他、経済格差に伴う不公平感の拡大、少子高齢化がもたらす過疎化など、課題は山積しています。政治・経済・教育・福祉・環境等、あらゆる分野で混迷が深まっているといっても過言ではありません。

そうした時代に生きる私たちは、そこに至る経緯は異なろうとも、結果として浄土宗僧侶を選択（せんたく）しました。そして、檀信徒はもちろん多くの方々が、私たち僧侶の一挙手一投足を通して、あるいは、各自の寺院活動を通して、浄土宗を見て、広くは仏教や宗教を見ています。私たち青年僧侶は、そうした現実を直視し、深い内省を胸にした上で、あるべき原点を見つめ直す必要があるのでないでしょうか。

今から八百年前、大きな混乱の時代を生きた法然上人は、阿弥陀さまに「選択（せんちやく）」されたお念仏の教えを人々に伝えるべく、身を賭して邁進されました。そして、数え切れないほど多くの方々が、お念仏の教えを守ってこられました。そうした方々の努力があったからこそ、今の私たちがいることはまぎれもない事実なのです。阿弥陀さまの「選択」の教えを担うべき浄土

宗僧侶を私たちは選択したのです。私たち青年僧侶の責務は何か。お念仏の相続を根底に社会教化の実践に向けて努力し続けなくてはならないと確信しています。

第十八期浄土宗神奈川教区青年会は、活動テーマ「選択（せんたく）の責務（しやくむ）」（せんちやく）を担って「」を掲げ、事業展開してまいります。

まず《自行》としての事業は、主に「法然塾」（浄土宗僧侶として、宗祖法然上人のみ教えを拡げるために、多様化する現代社会において如何に発信し実践していくのかを、講師の基調講演や会員同士のディスカッションを通して研鑽し、自身のモチベーションを上げていく研修会）を基盤に浄土宗僧侶としての自己研鑽をはかってまいります。

次に《化他》としての事業は、主に一般檀信徒を対象とした大別時念仏会の開催や、円滑なる救援活動を展開するためのシステムづくり等に取り組んでまいります。

最後に《和合》としての事業は、教区長杯争奪ソフトボール大会や家族会、会員同士やOB諸師方との交流などを積極的に行ってまいります。

また平成十八年度は、「浄土宗青年会第二回全国大会」を横浜の地で開催するにあたり、神浄青一丸となって大会運営にあたります。その他広報誌づくりやホームページなど対内外に積極的に広報活動を展開してまいります。

混沌とした時代だからこそ、私たち浄土宗僧侶が念仏弘通の心をもって、更に社会教化を実践して行かなくてはならないと確信します。どうぞ第十八期浄土宗神奈川教区青年会に大いなるご支援、ご協力を賜りますことを伏してお願い申し上げます。

合掌



## 伝弘に導かれて

大本山光明寺法主 宮林 昭彦 台下

このたび新年度を迎え浄土宗神奈川教区青年会が、新体制で発足され三荒弘道新会長が就任されましたことに祝意と大いなる期待を申し上げます。前会長渡部俊賢師には、「自

して歩む姿の背を見て学ぶことが余りないと思われまふ。父を師匠として仰ぎ、甘えを断つて厳しさを自覚的に受けとるような心がけることが必要です。

信教人信』のもと内外に亘り神浄青の面目新たに活動され任期を全うされた事に敬意を表します。

「法は人によって弘まる」といわれますが、そのことを三祖上人は「選択伝弘」といわれ、「伝は先師（師匠）より伝えられ、弘は弟子に弘むなり」と教えられています。

十八期の神浄青のテーマは、まず『選択の責務』として僧侶を選択した責務をとりあげられました。仏道は「師資相伝」といわれます。師匠から弟子へ次第に伝えられ、仏道実践を通し、人格に体得された心を師から弟子に伝えられます。まさに「以心伝心」です。

出家の立場は、僧侶としての自覚の中に何を伝えるかということ、浄土宗の帰結は、テーマである「選択を担って」という「選択本願念仏―往生之業念仏為先」を實踐し、自信をもってそのみ心を教人信するということが重

明治時代以降、私たちは寺に生まれ幼少よりお仏飯を食んで成育され、寺庭生活の中で自然に身についたことが多いわけです。そのため、当たり前の空気のようなもので仏縁の深さ有難さを感じることが少なく、父母の愛情に育まれても、師匠としての厳格さや僧侶と

寺庭に育ったことに誇りを持ち、孝養父母、奉事師長を心として、人々を善知識として交遊し、求道の厳しさを、歓喜の念仏の火を強く燃え上らせんことを念じて、ご挨拶といたします。



## 今、内省のとき

神奈川教区教区長 平野 仁司

「黒如をまとった若い僧侶たちののびやかな念仏の声、テキパキとした身のこなし、写経や法話、そして照明を落としたの礼拝には本当に感動した。充実したひと時を過ごせて有りがたかった。」

しての十か条があります。次にその内三番目まで挙げてみますと、  
(一)、清掃の心がけ  
(二)、檀信徒は聴いている朝の鐘  
(三)、身だしなみ、道衣と作務衣の使い分け  
行事の本番も大事ですが、日頃の自己管理は言動も含めて決しておろそかには出来ませ

これは、昨年十一月十九日に大本山光明寺で行われた、浄青主催による「大別時念仏会」における檀信徒からの率直な感想であります。僧侶一体となった念仏の響きは、心をゆるがさずにはおかなかつたのです。

五年先には法然上人・八百年のご遠忌を迎えます。「智慧第一の法然房」と言われた方がご自分では「煩惱具足の凡夫」とおっしゃっています。まさに内省の厳しさをそこに見るのであります。

こうした素晴らしい足跡を残して、渡部会長から三荒会長へとバトンタッチされた浄青。新年度は「選択の責務」のスローガンの下に順調にスタートされました。

檀信徒を含め、青年僧侶への期待が大きい今、各自が心をひとつにして無心に目的に向かって取り組んでいけば、その能力は三倍、四倍となっていくはずであります。明日の浄土宗を担うのは、浄青の皆さんなのです。

僧侶のあるべき姿、現実を直視した上での内省を胸に、原点を見つめ直すという方針には両手を挙げて賛同し、その活躍を期待するものであります。

ところで、私の寺では「身近な心がけ」と

# 第17期会長退任挨拶



第15代会長  
渡部 俊賢

第十七期は「自信教人信々今すべきこと」を活動テーマとして、二年間の事業活動を行ってまいりました。この間、青年会員をはじめ、多くの皆様のご支援に感謝申し上げます。

私は浄青が大好きだったようです。私にとつて、この二年間が浄青最後の年であり、浄青会員として最後にすべきことを考えた二年間でもありました。

浄青は四十三歳で卒業となります。宗祖法然上人が立教開宗された御歳でもあります。そして、この時期に私たち青年僧侶が、何をすべきかが今期の出発点でありました。法然上人の御教えを正しく伝えることが私たちの使命であり、そのためには自らの信仰を増進する必要があります。これは浄青卒業を前にした私の思いでもありました。また、今後変わることもないように思えます。

この二年間で、多くの事業を行ってまいりました。当初は宗義研修会、布教研修会など自行の活動が多くなる傾向となりましたが、それは神浄青の三信条「自行・化他・和合」の実践である大別時念仏会へとつながっていききました。会員自らが研鑽したものを檀信徒に布教し、僧俗一体となり、大本山光明寺の大殿でお称えしたお念仏の声は、今でも忘れられない一番の思い出であります。

第十四代夏見会長のあとを受け継ぎ、私なりに精一杯会長職を全うしてきましたつもりです。つたない会長を支えてくれた執行部の皆様をはじめ、各組常任理事・理事、各実行委員長・委員、全会員の皆様のお力添えがあつてこそ神浄青活動が行えました。本当にありがとうございます。

最後に、この二年間、神奈川教区長をはじめ役員の皆様、大本山光明寺の皆様、教区内諸大徳をはじめ多くの皆様のご理解ご支援に心より感謝申し上げます。



# 平成十八年度総会報告

中郡組 吉田 健一

四月二十七日大本山光明寺にて「平成十八年度浄土宗神奈川教区青年会定期総会」が行われました。総会に先立ち、大殿で回願法要を行い、引き続き書院に移動し、石川副会長の開会宣言により午後一時より総会が開会されました。

本年度総会には出席者が五十七名、委任状が五十九名分、計百十六名で、現在の総会員数百三十七名の過半数を得て、成立致しました。



第十六代三荒会長、第十五代会長渡部上人

(現相談役)の挨拶の後、平野教区長の祝辞、三浦法務部長より法然上人八百大遠忌に関する本山の諸事業の報告・依頼がありました。議案審議の平成十七年度事業報告・会計報告、平成十八年度事業計画案・事業予算案は、共に一同拍手により承認されました。

報告依頼事項として、今期の役員、委員、理事、全浄出向者として港北組大橋定敏会員(副理事長)、関プロ出向者の高座組香川陽祐会員(事務局員)の紹介・挨拶が行われました。続いて井上実行委員長より「第二回全国大会」の報告・依頼がされました。

また、今期事業である「法然塾」への参加呼び掛けがありました。次に各組の理事による事業紹介の後、卒業会員、新入会員への記念品贈呈があり、卒業会員を代表され渡部俊賢上人よりご挨拶を頂きました。新入会員として高座組の坂本慎成会員、戸田順教会員、戸田由美会員の出席がありました。

最後に曾我、斎藤両監事が総括を行い、平野副会長の閉会宣言により本総会は閉会しました。



# 関東三大本山別時念仏会報告

鎌倉組 當間 伸行

四月五日、増上寺御忌辰朝法要参列の後、「関東三大本山別時念仏会」が開催されました。当日はあいにく雨となりました。檀信徒と浄青会員あわせて百名余りの参加により行いましたが、残念ながら参加者は年々減少傾向にあるようです。集合が朝早いというところで、会員自身もさることながら檀信徒を誘いにくくなっているのではないのでしょうか。しかし、その中で集まった参加者は、僧俗心をひとつにして、お念仏の声を合わせ、力強くお称えしていました。



# 御忌詠唱奉納大会報告

高座組 香川 陽祐

四月四日に大本山増上寺に於きまして、「第二十六回御忌詠唱奉納大会」が行われました。

当大会には、総勢四十名以上(神浄青からは八名)の関東ブロック浄土宗青年会会員が一つのチームとして参加し、「つきかげの御詠歌」を奉納いたしました。

桜満開の中でのお唱えは大変気持ちよく、清々しいものでありました。



# 出向者紹介

このたびは神浄青の推薦を頂戴して、全国浄土宗青年会にて、副理事長を勤めさせて頂くこととなりました。私自身これまでの浄青活動振り返ると、神浄青第十四代夏見会長ならびに全浄江口理事長の下、多くの方々との出会いや様々な経験をさせて頂きました。今年度として、神奈川で全国大会が開催されます。全浄として、神浄青としてこれまで先輩方に教えて頂いた事を生かし、尽力して参りたいと思います。また皆様のご協力をよろしくお願い致します。



全浄副理事長  
大橋 定敏



関プロ事務局員  
香川 陽祐

第十八期関東ブロック浄土宗青年会に、事務局員として出向させて頂いた高座組の香川陽祐です。今期は埼玉教区の石垣正順理事長のもとで、関プロ浄青の事業を展開してまいります。各教区の枠組みを超えて他教区の事業にも参加できるように構築し、相互関係の中、一つの大きな輪として共に活動しようという事が今期の大きな取り組みの一つであります。組・神浄青の事業のみならず、関プロ浄青の事業への積極的な参加をよろしくお願い致します。



副会長  
石川 参天

この度、神浄青第18期三荒弘道会長の下、副会長を務めさせて頂くことになりました。神奈川浄青に参加して20年が経ちますが、活動としては実質10年余りでしょうか。その中に在って自坊の法務では体験出来ない事業や研修が、僧侶としての自分にどれ程の糧に成ってくれたことでしょうか。

16期に於いて神浄青が関プロ研修会の担当となった折、三荒会長が実行委員長、私も委員の一人でしたが、浄青手創りの研修会ということで、その1年は大変であっても充実したものでした。その時の浄青活動への情熱は、今期三荒会長の更なる信念と相まって神浄青会員へと伝えられるでしょう。副会長として自身も含めた全会員が浄青三信条「自行・化他・和合」のもと僧侶としての向上が計れるよう、微力ながら三荒会長を支え会員皆様への一助と成れるよう努めて参ります。2年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



監事  
曾我 高順

第18期がよいよ始動し、三荒会長のもと、中郡組 斎藤匡念上人と共に監事を務めさせて頂くことになりました。

浄土宗僧侶として法然上人のみ教え（お念仏）を多くの人に伝えていくという同じ使命・責務を持った者同士が集い、研鑽し、資質の向上を目指し、教化につなげて行く事を目的とし活動しているのが浄青です。

三荒会長が「浄青のうちに恥を沢山かきさい」とよくおっしゃいます。今期2年間「選択の責務～選択を担って～」を活動指針とし様々な事業が展開されます。多くの会員に積極的に事業にご参加いただき、共に恥をかき、共に資質の向上を目指し、教化につなげられるよう努力してまいります。

監事とは「財産および事業執行の監督・監査、庶務を行う人」と辞書に出ています。

優秀な斎藤監事に監督・監査をお任せし、私は庶務に徹して参ります。2年間よろしくお願い致します。

# 神浄青 紹介



会計  
小山 英紹

この度、神浄青18期の会計を担当させて頂く事になりました。

今まで色々と神浄青の役をさせて頂きましたので、今期はご辞退するつもりでしたが、中郡組の三荒上人が18期の神浄青会長に成りましたので、三荒上人よりお願いをされ今期の会計をお受けさせて頂きたく事となりました。

浅学非才な私よりも会計になっていただく方は沢山いたはずですし、前々期の夏見会長の時も会計をさせて頂きましたので、他の方のほうが良かった気が致します（神浄青会員の皆さん遠慮しないで受けてください）。

16期の時はほとんど石川参天上人にお任せしておりましたのであまり自信がありませんが、2年間一生懸命皆様のお役に立てるよう頑張りますのでご指導の程宜しく御願致します。



事務局長  
吉田 健一

第18期神浄青事務局長に就任いたしました中郡組の吉田健一でございます。今期事務局は、各組より選りすぐりの10人もの仲間を得る事ができました。この事は、浅学非才の身であります私の不足を補っても余り有るものであります。その反面、中途半端な仕事は出来ないものと、責任感を強く感じている次第であります。

さて、混迷する現代社会の中で、我々青年僧侶一人一人が「何かをしなければ」という漠然とした危機感を抱いております。三荒会長は、その思いを一人のものとして、会員同士で共有しながら共に同じ志を持つものとして一歩を踏み出して行こうと訴えかけています。その熱い思いを各会員に伝え、漠然とした「何か」を具現化することが、我々事務局の責務と心得ております。その為には、何よりも会員各位のご意見やご指導を頂戴しながら今後の活動の糧にして行きたいと考えております。2年間どうぞ宜しく御願致します。



会計  
野呂 幸裕

神浄青活動も早6年目、一期ずつ色々な事業や委員会を経験してきました。今期は第18期三荒会長の下、前期に引き続き執行部へ入れて頂き、会計の任を仰せつかりました。

中郡組小山英紹上人とコンビを組めるのは大変心強いですし、2年間勉強できるチャンス頂きました。

会計の内容はやってみても、中々すぐには理解できないかも知れませんが、時間は十分にありますし、先輩方の中には豊富な経験をお持ちの方々も多いので、是非とも支えて頂いて円滑に責任を持って取り組んでいきたいと思っております。

会計報告等の資料も以前の形式と並行しまして、閲覧用に増減などは視覚的に解りやすい種類もご用意していきたいと考えています。

今年度も色々な事業が始まりますが、その全てがより良いものになる様に自分自身が力を発揮できればと思います。

## 事務局員



石川 和弘



宮腰 肇玄



伊香輪 一晔



石井 康順



三浦 正順



小松崎 成淳



福田 雅宏



酒井 仁成



大場 得法





監事  
斎藤 匡念

第18期三荒弘道会長のもと監事役を仰せつかりました事、無上の喜びであります。思い返せば神浄青に於いて、最初の執行部役職をさせて頂いたのが北邨会長期での会計でした。しかも同歳の三荒君と組んだのです。そして最後の執行部が三荒会長のもと同歳の曾我君と組んでの監事です。初心の浄青に対する希望を大切に、この大役をもって「最後まで気を引き締めてしっかりやれ」と任されたものと自覚しております。浄青会においてこれまで多くの楽しみもありましたが、印象に残ることは諸先輩からの注意、お叱り、また会員からの刺激です。特には法然上人のみ教えをもとに行った事業での感動です。浄青活動に参加すること、無駄なことはありません。今期のテーマ「選択の責務～選択を担って～」をもとに展開していく活動を通して一人でも多くの会員が浄土宗の僧侶になって本当に良かったと実感し、念仏行の実践、積極的に浄土宗の布教が出来るようになれればと思っております。同信の仲間として共に良き刺激をしあい、楽しく2年間を過ごしましょう。



副会長  
平野 誠司

この度、神浄青第18期三荒会長の下、副会長を務めさせていただきます。早くから浄青には入会をしていましたが、今まで会の執行に携わった経験がなく、そのため戸惑うことばかりで、不安を抱えたままのスタートとなりました。至らないところばかりであると思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、今期の活動テーマは「選択の責務～選択を担って～」であります。副会長をさせて頂いた中で私の私的責務は、会長を補佐し、会員との潤滑油的な役割に徹して、神浄青の事業が円滑に進むよう配慮していくことであると思えます。この2年間、多くの会員の皆さんとコミュニケーションをはかりながら、テーマ達成のため、一所懸命に努力していく所存です。「浄土宗僧侶は如何にあるべきか」を常に念頭におき、会長が掲げる「選択の責務」を遂行して参りましょう。



相談役  
渡部 俊賢

第18期三荒会長の下、相談役を務めさせていただきます。OBとして思うことは、浄青の時期に多くの人と出会い、仲間と共に研鑽する事は、とても大切な事であり、一人一人が有意義な浄青活動を行っていく求道の精神を持ち、自行・化他・和合の三信条を忘れずに、浄青の活動を行ってみたいということです。さて、今期三荒会長が掲げたテーマ「選択の責務～選択を担って～」は、僧侶としての自己の責務を見直し、社会教化、念仏弘通を邁進する事と受け取りました。三荒会長は、昨年まで(社)日本青年会議所(関東地区)神奈川ブロック協議会会長として、広く一般社会の教化をされました。その会長の前述するテーマは、一般社会が期待する僧侶の姿があまり見受けられないからかもしれず、私自身も大いに反省しうるテーマです。三荒会長の思いが、全会員に届き、充実した浄青活動が展開される事を願いつつ、少しでもお役に立てるよう共に研鑽させていただきます。

# 第18期 役員



書記  
小俣 慶樹

この度、浄土宗神奈川教区青年会第18期第16代会長三荒弘道上人のもと書記を務めさせていただきますこととなりました。小田原組西念寺小俣慶樹です。早いもので私がこの浄青活動を始めさせて頂いてから5年余が経ちました。前期は編集委員会の一人として皆様方からご指導いただきましたこと今思いますと大変有難く思う次第であります。また、私が初めて神浄青の活動に委員の一人として手伝わさせて頂いたのが、三荒実行委員長の関東ブロック研修会でありました。初めてでありました故、あの時も多くの諸先輩方から多くのことを学ばせて頂きました。神浄青の活動内容・神浄青の目指すべき方向性・そして神浄青会員多くの方々との出会い。この書記という仕事に今まで学ばせて頂きましたことを一つでも多く生かして行きたいと思っております。1期2年、自分の出せる力の限り精一杯務めて参りたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。



編集長  
水谷 知靖

第18期編集長を務めます京浜組水谷知靖です。第16代三荒弘道会長のもと、2年間よろしくお願い申し上げます。今期は、既存のホームページのさらなる拡充(メディアを介して、対内外に対する私たちの活動を広く伝える)と、「浄青 HOW TO BOOK」(とっさの時の便利帳)の作成(メディアと活字との融合)を目標として活動していきます。特に、今年度はホームページの立ち上げに尽力し、「ナイスボーズ通信」のPDF化や、各組の行事予定や報告等を掲載するページの開設、教化に役立つページ等を発信する予定です。私も、この当期(2年間)が最後の浄青活動となります。残された事業活動を通じて、執行部と共に邁進して行きたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

## 編集委員



森本 有史



大熊 隆史



柴田 文彦



井上 俊道



丸地 裕信



三浦 康志



成田 昌弘

# 京浜組

林田 康順



水谷知靖前会長からバトンを受け、今年度から二年間、京浜浄青の会長をつとめさせて頂いたことになりまして林田康順と申します。よろしくお願ひいたします。今期の京浜浄青は、会長林田、加藤光成副会長、森本有史事務局長、古屋道正会計、大熊隆史書記以下、総勢十名の体制となります。

なお、この三月をもって、元会長・陣川隆行先輩が卒業されました。本当にお疲れさまでした。今後も後輩の私たちにご指導をいただきたいと思います。

また、昨年度、加藤副会長と白石隆弘元会長が、それぞれ大徳寺様と正行寺様へ御晋山されました。心よりお慶び申し上げます。また、さて、京浜浄青では、今期最大

の行事として、来る平成二十年三月五日から七日までの三日間、法然上人八百大遠忌記念・結縁五重相伝を開筵いたします。

この行事は、白石元会長の期に開筵した結縁授戒会を受けたものです。神奈川教区内では、浄青主催による五重相伝の開筵は、教区としても、組としてもはじめてのことかも知れませんが、他組の浄青に比べ会員数の少ない京浜浄青ですが、五重相伝の成満を目指し、自行・化他・和合の精神で精進して参ります。

なお、本年末に大本山光明寺布教師会会長・柴田哲彦先生をお招きして公開研修会を開催する予定です。研修会には、一人でも多くのみなさまのご来会をお待ちしています。

# 港南組

長谷川 昌史



この度、港南組浄青の会長を務めることになりました。浄青の必要性や重要性は認識していましたが、仕事をしていたということもあり、これまで浄青活動にはあまり積極的に参加してきませんでした。まだ分からないことなどもあると思いますが、みなさんの邪魔や迷惑をかけないようにやらせていただきますので、宜しくお願ひ致します。

港南組では会員数が減っており、この先数年みても減少する一方になっております。活動自体も支障が出るのではと思えるほどです。まだ学生や仕事をしている会員もいるので会員数より活動している

会員が少ないのが現状です。このような現状を踏まえて今年度の活動予定も前年度にならうことになりました。鎌倉組と共催している「勤修御伝」の輪説会を柱に、年三回だった茶道研修会を四回に増やし、寺族も参加できる研修会にしようと思っております。また会員の婦人親睦会も年三回に増やして更なる親睦を深め、情報交換をいただこうと思っております。

会員が少ないと嘆いてもなにもできませんので、出られる人、活動できる人が助け合いながら、また協力しあいながら活動ができればいいと思っております。これからもよろしくお願ひ致します。

## 神浄青各組紹介

# 港北組

大谷 正元



この度、浄土宗神奈川教区港北組青年会第十四代会長を務めさせて頂いた大谷正元、大谷正元です。

今期、港北組浄青は副会長・理事に宝秀寺、森泰彦上人、副会長に蓮勝寺、柴田文彦上人、事務局に渡辺剛志上人をはじめとする計十六名の会員でスタートさせていただきます。

今期事業について、前期に引き続き講師に塩澤智彦上人を迎え法式研修会を行います。今期は、若い方々の入会もありこの法式を更に磨きをかけるの必要ですが、初心に戻り基本から研鑽させていただきます。計四回の法式研修会を予定しております。

また、恒例となっております港南・港北家族親睦会は会員家族相互の理解・交流を深めるべく六月中に事業を予定しております。

また、三荒会長率いる浄土宗神奈川教区青年会の活動にも積極的に関与し、協力し、より一層の発展に貢献できるよう精進して参ります。

我々、港北組浄青では「明るく、正しく、仲よく」を基礎に「自行・化他・和合」の精神で各諸事業に取り組みますので何卒、浄土宗神奈川教区港北組青年会をよろしくお願ひ申し上げます。

# 高座組

平野 誠司



この度、曾我前会長の後任として、高座組浄青会長を務めさせて頂きます平野誠司です。藤本・村瀬両副会長並びに上田事務局長と共に組浄青を盛り上げて行きたいと思っております。

さて、今期の高座組の大きなテーマは「継続」です。前会長期に、毎月の法式並びに詠唱の研修会、千礼拝及び三部経輪読会、家族親睦会や他組との合同研修会など多くの事業が展開されました。その一つひとつが、会員自身の研鑽の場になった事は言うまでもありません。「継続は力なり」と申しますが、大変なことがあっても、続けていくうちに楽しみや喜びが湧いてくることもあるはずで、先ずは続けることが大切であると考

え、それらの見直しをしながら有意義な事業を実践していきたいと思っております。「自行・和合」が中心の活動から、今期新たに教化事業にも挑戦し、より一層のパワーアップを目指してまいります。折しも、今年度四名の新入会員を迎え、総勢二十三名の大所帯となりました。様々な事情から、限られたメンバーで活動している現状ですが、「参加してよかった」「また行ってみよう」という気持ちを持ってもらうことを課題として、若い会員の方々が、組や浄青事業へ積極的に参加出来るような環境づくりを取りくむ所存です。

今期二年間、高座組浄青をよろしくお願ひ致します。



# 中郡組

相馬 正寛

この度、浅学非才の身にあらながら、歴史ある中郡浄青の会長を任せられました。緊張感と希望の中に、思いを新たにしております。ここ数年、中郡浄青では浄土宗僧侶としてのアイデンティティ確立事業、新理念行華十念による結婚式についての研究・発表、法話の勉強会、お別時等々、我々浄青会員が浄土宗僧侶として生きていく上で糧となる数々の事業を展開してまいりました。

これまでに培ってきた素地、素養をただ引き継ぐというのではなくさらに伸ばし、広げていきたいと考えます。また、なによりも、今期中郡浄青から、当組浄青前々会長である三荒弘道上人が中郡浄青会長の大役を果たされたいです。組浄青として全力でサポートしていきたいと思っております。中郡浄青の各事業への、これまで以上の積極的な参加、協力をしていきたいと思っております。



# 鎌倉組

吉田 佳之

この度、平成十八年度・十九年度の鎌倉組青年会会長に選出されました。蓮乗院の吉田佳之です。昨年度で、西念寺富田浩雅上人、高徳院佐藤孝雄上人、光傳寺安田裕志上人、正業寺渡部俊賢上人、四名の諸先輩方が卒業なされました。

また、本年度は九月の上旬に泊二日で滋賀の方面あたりに研修旅行を予定しております。副会長の成実洋史上人、事務局の島瀬弘昌上人、会計の伊香輪一晚上人は、じめ、皆様のご協力を頂戴して、二年間を無事に務めたいと考えておりますので、ご支援ご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 神浄青各組紹介



# 小田原組

松蔭 英宣

平成十八年度より新たに小田原組青年会の会長を務めさせて頂き、善光寺の松蔭英宣です。役員として副会長に光明寺岩崎正伸、報身寺荒井良仁の同級生コンビを迎え、事務局には春光院石川琢道、常光寺阿川貴浄・城前寺皆川演亮、会計には西念寺小俣慶樹・圓宗寺大場得法の次代の浄青を担う若手を配し、監事には心光寺柴田幸博師・本誓寺成田昌弥師の経験豊富な先輩を迎え、一丸となって浄青活動を盛り上げてまいりたいと思っております。

今年度の小浄青の活動は、私を含めまして平日の勉強が足りないと自覚している会員が多く、青年僧侶として「何が出来るのか」「何をしなければいけないのか」「何をしながら考えながら、歩を進めていくことに重点を置き、毎月第三日曜日の夜に勉強会を開催致します。お互いの悩みを打ち明け、その都度テーマを決めながら切磋琢磨し、青年僧侶として成長してまいりたいと思っております。また、小浄青として浄青活動を正しく理解してもらい、家族ぐるみの親睦を深める為、七月に家族親睦会を予定しており、十二月二十三日には恒例の歳末助け合い托鉢を小田原駅前にて行います。尚、今年度は神浄青教区長杯争奪ソフトボール大会担当組として、万難を排し、皆様をお迎え出来る様、浄青活動を通して、親睦を深め、青年僧侶としてお互いに成長できる様、どうぞご支援ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



# 三浦組

進藤 法雄

この度、松原会長の後を引き継ぎ、三浦組浄青会の第十四期会長を務めさせて頂いたこととなりました。無量寺の進藤法雄です。組の役員は、副会長が菊地邦彦上人・山本宗純上人、事務局が須田広紀上人、会計が清水光司上人、監事が松原尚樹上人です。

諸先輩から受け継がれた「三浦らしさ」を基に更なる研鑽・親睦を深めて行けたらと考えております。研修事業としては慶野匡文上人による布教研修会、吉水祥史上人による法式研修会、杉浦定徳上人による詠唱研修会、親睦事業としては伝統のパーベキュー並びにピニング大会を予定しております。また、すっかり恒例となりました海外研修は平成十九年五月に大韓民国を予定しております。わが国の仏教に多大なる影響をもたらした地を訪れ知識を深めるとともに、ふれあいを大切にしお互いの理解を深め、東アジア地域の平和に貢献出来ればと思っております。他組からご参加の方も大歓迎です。今回、三浦組浄青会では多様な社会活動のため、他組に先駆け愛称(別称)を採用いたしました。VCM「ヴィクセン(比丘子)コミュニティ(地域共同体)ミウラ(三浦)」です。大学を卒業し、浄青会に入ってから早十七年。たくさん事を学ばせていただきました。残りもあと数年となりました。最後のご奉公という訳ではありませんが、この二年間一生懸命盛り立てて行きたいと思っております。宜しくお願いいたします。

# 卒業会員紹介



京浜組 観音寺  
陣川 隆行

「僧侶とは仕事では無く生き方である」とある先生がおっしゃっていました。これからの永い人生において、生き方が決まる大切な年代の浄青であります。何も分からない自分であると思ひ込んで、様々な事にチャレンジして行って下さい。



港南組 金臺寺  
奥田 昭應

浄青主催の講習会は、高齢に至るまで年齢の異なる参加者の中で机を共に出来、研鑽というものが大学卒業で終わるのではなく、生涯積み重ねていく事の大切さを学びました。いつの時代も「人を育てる」会であって欲しいと望みます。



高座組 常光寺  
野口 浩晶

この春、浄青を卒業するにあたり浄青活動を振り返ってみますと、何もわからなかった自分に、沢山の経験を、そして多くの仲間を作ってくれた浄青に感謝の言葉しかありません。永い間、本当に有り難う御座いました。現役会員の方々の今後の活躍と神浄青の更なる発展を祈念し挨拶とさせていただきます。



鎌倉組 西念寺  
富田 浩雅

いよいよ卒業となりました。大学在学中より24年間大変お世話になりました。その間先輩方のご指導や、後輩の協力によって、今の私が有るのだという事をいつも心に刻み、これからも頑張りたいと思います。



鎌倉組 正業寺  
渡部 俊賢

浄青活動で一番の思い出は、私が鎌倉浄青会長時の平成11年に三浦浄青、鎌倉浄青合同で主催したハワイ別院での引声法要です。当時、不断寺杉浦定徳上人(当時三浦浄青会長)が講師となり、十夜引声の研修会を毎月行っていました。ハワイ別院で引声法要を行うことで、研修会もさらに充実していきました。多くの方々のおかげで、60名を超える参加者と共に行えた事業は懐かしい思い出です。

# お疲れ様でした



港北組 泉谷寺  
久米 真浩

聖号十念 浄青卒業を迎え、ふり返りますれば、二十数年に渡り、決して積極的とはいえませんが、多くの活動に参加させて頂いた中で、浄土宗僧侶として成長出来ました事、皆様に感謝申し上げます。



高座組 本真寺  
斎藤 良典

自分の進むべき道、その方法など、模索している中、あつという間の浄青でした。信仰の確立は、とても時間のかかることです。人それぞれ違います。元祖様のみ教え、善導様のお姿、いくつになっても求め続け、感動を頂戴していきたいです。



鎌倉組 高德院  
佐藤 孝雄

浄青の活動に殆ど参加できぬまま退会の年限を迎えてしまいましたが、時代と切り結ぶなか、お寺に何が出来るのか、今後とも皆様と一緒に考えたいと存じます。変らぬご交誼、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



鎌倉組 光傳寺  
安田 裕志

後輩の皆様へ。一回も、仕事が忙しく参加できなかったで、特に何も言う資格はありませんが、一度社会(通常の会社)に出てから、お寺の仕事につくと、お寺のありがたみ、檀家様の大切さが大変よくわかりました。可能であれば、皆様も三年でも五年でもいいので社会に出てみるとういと思っています。



小田原組 道場院  
都築 顕道

本年、浄青会員を卒業させて頂きました。振り返ると、様々な思い出が想い浮かんで参りますが、何よりも浄青活動を通しての財産は、その活動を通して知り得た多くの仲間達です。卒業した後も多くの仲間との和を大切に頑張って参りたいと考えております。皆様の今後益々のご発展を心より祈念申し上げます。大変お世話になりました。

中郡組 還浄寺 宮澤 正恭

## 新入会員紹介

宜しくお願ひします



高座組 生往寺  
坂本 慎成

- ①好きな食べ物 ①ヨーグルト
- ②好きな芸能人のタイプ ②深津 絵里
- ③趣味 ③演劇鑑賞



高座組 善然寺  
戸田 順教

- ①ラーメン
- ②坂口 良子
- ③エコロジー



高座組 善然寺  
戸田 由美

- ①豆腐・パン
- ②唐沢 寿明
- ③茶道



高座組 信法寺  
大谷 宗通

- ①特になし
- ②特になし
- ③ギター



鎌倉組 長安寺  
玉木 弁了

- ①煮魚
- ②特になし
- ③パソコン、音楽、読書



小田原組 三寶寺  
竹石 光仁

- ①鳥料理
- ②特になし
- ③バスケットボール

## 『書』について その1 「文房四宝」

小学校入学時より書道を始め、今年で二十二年目を迎えます。その間、良い師にも恵まれ、不器用ながらも、何となく字の形をしている様なものが書けるようになりました。まだまだ未熟で精進努力が必要な身ですが、普段心がけていることや実践していることが、少しでも浄青会員の皆様に役に立つことを執筆いたします。

今回は、書の用具として主に用いる『文房四宝』(筆・墨・硯・紙)について説明いたします。

筆・・・筆は使う人の好みや、使い道によって用途が異なります。日本のものを和筆といい、中国のものを唐筆といいます。主に馬・イタチ・狸・羊・兎などの動物の毛で作られています。筆の穂の長さを大きく三つに分けると、長鋒・中鋒・短鋒の三種類に分けられます。塔婆を書くときには、中鋒で筆の腰に力があり、穂先が良く大きくイタチ系統の筆を使用すると良いでしょう。

新しい筆をおろす際、穂先から三分の二程度を手でおろします。糊で固めてある為おろした部分だけをよく水で洗い流してから使います。筆が全部おろしてしまった際には、腰の部分だけを糊で固めるか、糸などで巻いておくとも良いでしょう。

使用後は直ぐに水で洗い墨を良く取り、布などで拭き取り、穂先を揃えて通風の良い場所に陰干しします。

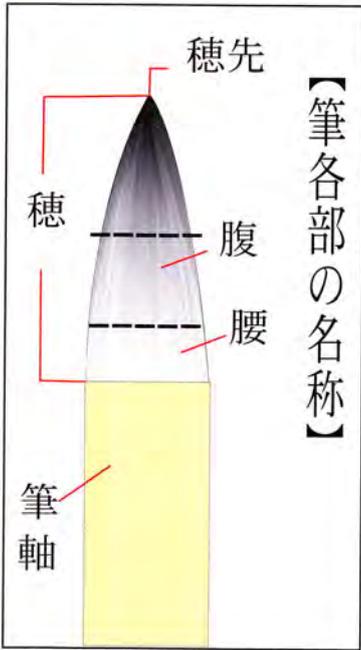
小筆を使用する際には、穂先から三分の一程度をおろし、使用後は使った部分にだけ水を付け、布などの柔らかいもので拭き取りキ

ヤップをして保管します。

墨・・・固形墨には、日本製の和墨と中国製の唐墨があります。原料には胡麻油や菜種油などを使用する油煙墨(茶を帯びた色)と松材を使用する松煙墨(青を帯びた色)などがあります。墨を擦る際には必ず新鮮な水を使い、水と粒子とが良く混ざるよう水を少しずつ継ぎ足し、円を描くように墨の面が水平になるように静かに擦ります。使用後は、すり口を紙や布などで拭き取ります。

硯・・・日本産を和硯と呼び、有名なものは雨畑硯(山梨県)、赤間硯(山口県)、玄昌硯(宮城県)などがあります。中国産を唐硯と呼び最も有名なものは、中国広東省広州の端溪硯で、硯の良し悪しは、やはり良く擦れることですが、大きさも形も色も様々で彫り物がしてあるものも数多く、鑑賞用として大切にされているものも数多くあります。

### 【筆各部の名称】



紙・・・書道用には、和紙(日本産)、唐紙(中国産)、半紙、画仙紙、奉書紙、色紙、短冊などがあります。練習用として一番用いる半紙は、良く墨を吸い少しにじむのが良いとされています。製法には良質の手漉きと機械漉きとがあります。紙を保管する際には湿気の少ない所に置きます。

以上が『文房四宝』の説明です。今回は『書』を学ぶ心構えとして用具を大切に扱うことを説明致しました。

筆 大場得法

次回は筆法について説明致します。

### 編集後記

第十八期新体制になり、編集委員会の最初の仕事であります「浄青神奈川」を無事に発行することが出来ました。

表紙のデザインは、今期会長のイメージカラーであります(?)「黒」を基調にデザインし、本文のレイアウトは前号に準じました。当紙の編集にあたり、「想像&創造」の難しさを痛感いたしました。次号では更なる広報紙としての役割を拡充するように努めていきます。

皆様からの情報やご意見を、ぜひ編集委員会へお知らせください。最後になりましたが、今期のテーマであります「選択の責務」を全うし、編集部一同事業の遂行に尽力いたしますのでよろしくお願いたします。

編集委員会一同

## 平成18年度 浄土宗神奈川教区青年会 事業計画

月	日	内 容	場 所
4月	4日(火)	関プロ浄青御忌詠唱奉納大会	大本山増上寺
	5日(水)	関東三大本山別時念仏会	大本山増上寺
	21日(金)	<b>第1回理事会</b>	大本山光明寺
	27日(木)	定期総会 神浄青入会式・卒業式	大本山光明寺
5月	29日(月)	<b>第2回理事会</b> 新旧歓送迎会	大本山光明寺、鶴ヶ岡会館
6月	1日(木)	機関紙『浄青神奈川』第33号発行	
	9日(金)	第1回法然塾	大本山光明寺
	22日(木)～23日(金)	第34回関プロ浄青総会並びに研修会(山梨教区)	常磐ホテル
	23日(金)～28日(水)	浄土宗ハワイ開教区授戒会並びに 宗祖法然上人800年大遠忌記念法要	ハワイ浄土宗別院
7月	4日(火)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕 <b>第3回理事会</b>	大本山光明寺
	28日(金)～30日(日)	第59回夏期僧堂手伝い (関東地方教化センター・神奈川教区)	大本山光明寺
8月	30日(水)	<b>浄土宗青年会 第2回全国大会</b>	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
9月	12日(火)	<b>第4回理事会</b> 第2回法然塾	大本山光明寺
	28日(木)	神奈川教区長杯争奪ソフトボール大会	担当 小田原組
10月	10日(火)	大本山光明寺十夜前清掃奉仕 <b>第5回理事会</b>	大本山光明寺
	14日(土)	十夜托鉢 十夜法要手伝い	大本山光明寺
11月	8日(水)	関プロ浄青スポーツ交流大会(埼玉教区)	荒川総合運動公園
12月	12日(火)	<b>第6回理事会</b> 忘年会	
1月	24日(水)	御忌別時會 <b>第7回理事会</b>	大本山光明寺
2月	上旬	第3回法然塾	大本山光明寺
	7日(水)～8日(木)	第32回全国浄土宗青年会総合研修会	広島
	下旬	他宗団見学	
3月	上旬	全浄大別時會	大本山増上寺
	下旬	<b>第8回理事会</b>	大本山光明寺

※今年度中にホームページ開設(メールマガジン「NICE BOSE通信」第11号)

# 浄土宗青年会 第2回全国大会

## 同入和合海

— 共に育み 共に生きる —

期日 **8月30日(水)**

会場 ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

